



# AA日本ニューズレター



AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス TEL03-590-5377

〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橋ビル 9F FAX03-3590-5419



〒100-91  
東京都中央郵便局  
私書箱 916

## No.42

## 20年の喜びを明日に向けて

AA日本20周年記念集会のテーマが決まりました



10月5日、毎月第一火曜日に開かれている実行委員会委員長会議に2カ月ぶりに出席して、驚いたことがいくつかあった。まずは当日の書記を引き受けていたので、今日は何回目の委員長会議になるのかと実行委員長に聞いたところ、「3回目かな?」と頼りない返事が帰って来た。他の仲間から、「JSOで2回、ここ(豊島勤労福祉会館)で3回目になるから、今日は5回目だ、と説得力ある指摘で書記の仕事はスタートできたものの、そんなことがどうしたというような自然とした委員長の顔を、わたしは驚いて見つめてしまった。しかし、その時わたしの受け取ったメッセージは「このイベントは間違いなく、大成功するに違いない」というものだった。AAに関することでは、成功も失敗もすべて資産になるとは思ってきたが、何といっても20周年というのは大イベントには相違なく、多くの仲間たちの友愛と喜びに満ちあふれた思い出深い集会になってほしいと願うのは当然で、そのためにこうして皆忙しい中、何度も集まってその知恵とアイデアを出し合っているのである。やはりすばらしい出会いを期待しているのである。だがどうやらわたしは力んでいたようだ。少し興奮して平静さを失っていたのかもしれない。委員長の穏やかな、もっとはっきり言えばのんびりした姿には、わたしのような妙に緊張したものが削り取られて柔和になったものが雰囲気として漂ってたのだろう。突然、わたしは肩の力が抜け、あのいつものミーティングと同じ安心感を覚えたのだ。そして悟った。「大丈夫だ。きっと成功する」と。

かつて日本中が学生運動に揺れ動いていた時期、私も大学生の一人と、その青春の日々を送っていたのだが、革命だ、階級闘争だ、と叫び回っている友人たちを見ながら、ある本で読んだ「成功した革命には必ず詩と音楽が伴っている」という言葉を心の中で繰り返していたのを思い出す。フランス国歌、ラ・マルセイーズはあの大革命のときに自然に生まれた音楽だ。しかし今の日本の運動にはポエジーがないからきっと挫折するだろう、と。もちろん、わたしはそう自分を納得させて酒を飲みながら歴史の傍観者を気取っていたのだが、そしてその後も20数年をそうして生きてきて、AAにたどりついた今、わたしの中では文字通り革命的变化が起こっている。想像すらしていなかった内なる変化と、傍観者の位置から参加者の位置への移行の二つがそれである。わたしは今、自分を取り巻く世界と積極的にかかわっていく生き方を選択するようになっている。グループの役割からスタートして、種々の委員会、集会、セミナー、そして今回の20周年記念集会と、その始まりからかわりを持つことで知らず知らずのうちに身についたもの、頂いたものは多大だ。わたしのスポンサーはいつも色紙に「プログラムの実践」と書き続けているが、わたしはそれを自分のステップと同時にサービスやコンフェレンスの活動にも当てはまるものと考えている。

さて、この日の委員長会議で驚いたことの二つ目は、もう十分話し合い、検討したのだから、実際にテーマとポスターとチケットの価格を決定しようという方針を打ち出し、それをその日の会議の進行の中で実現していったメンバーたちの情熱だ。それはもう信頼という言葉では足りず、信仰と言うにふさわしく、全体の福利を第一とする一体性の具現そのものではないか。この情熱の源にあるのは、AAに対する深い感謝以外の何ものでもない、とわたしは目を見張る思いがしたのだった。

ところで、ポスターの募集をしていることを知ったこの春、わたしは実はほそかに自分も応募してみたいと考えていたのである。いちおう店舗デザインで食(酒?)を得ていたこともあり、ある程度のもので

きるのではないかと少々自信もあったのだ。結局できなかったのではあるが、応募が数点あったと聞いたとき、それほどの作品を期待していた訳ではなかったのだ。しかし、最終選考で残った三点の中から決めようと、ボードにそれらが張られたのを見たとき、わたしは自分のうぬぼれをまた思い知らされたのだった。すばらしい作品だった。多分あの仲間だろうと見当はつけられたが、その出来栄えたるや抜群であった。満場一致ですぐに決定されたそのポスターは簡潔で洗練されており、別に決められたテーマ「20年の喜びを明日に向けて」に本当にふさわしいもので、印刷ができあがり、日本全国のいろいろなところに張り出されるのが楽しみである。できれば、駅や空港などで見かけることができたなら、と想像は広がっていく。AAメ

ンバーの一人として誇りを持てる自分をうれしく思う。

最後に、12月の実行委員会の開催地を横浜でと希望され、わたしに任されたのだが、神奈川地区の仲間の尽力により、今話題のランドマークタワーの一室を借りることができたことを報告させて頂こう。詳しくは別に広報されることになるが、明るい未来に向けて次々ともたらされる朗報に、日本AA創立20周年を祝う大会は、神の恵みのもとに大なる盛り上がりを見せていることが確認できよう。そしてわたしが初めてAAにやって来たとき言われた言葉を、ここでも使うことができる。

一緒にやってみませんか？

副事務局長 F.

## AA日本20周年記念集会に向けて

「君は役に立っているよ」。AAにつながったばかりのころ、スポンサーに連れられてAA15周年記念集会の実行委員会に参加し、ある仲間が言ってくれた言葉である。飲んでいるころは、周りからだらしない人間の代表のように言われ続け、そして自分自身でもそう思いこんでいた。それだけにその一言で縮みあがっていた自分の心が「一気に広がってゆく思いがした。そして、その集会の“さよならミーティング”の壇上で、実行委員会のメンバーとしてスピーチをさせて頂いた。「何とか20周年まで飲まないで生き延びたいと思います」と。

しかし、アルコールは止まったものの、不安と恐れ、そして過敏症にひどく悩まされていた当時の自分は、あまりにももろい自分に直面し、多分ソプラエティは続かないだろうと考えていた。それ以来、毎日のようにミーティングに出席し、メッセージを運び、サービス活動に加わり、フェローシップに参加しているうちに、あっという間に3年半が過ぎた。その間に大学に復学し、無事卒業し、就職することができ、内面的にも少しずつ変化してきた。当然、自分自身もAAの共同体も3歳半年を取った。

15歳からアルコールを飲み始めた自分が、15歳のAAにつながったというもおかしなもので、自分とAAと一緒に成長しているような気がしてならない。そして一年半後のAA20周年記念集会で、自分もAAも“成年に達する”ことになる。ビル・Wは「AA成年に達する」の中で成年に達するとは「成熟したのではなく、ただ責任を持つ年になった(P.349)」と述べているが、自分もそしてAAもそのような心境になれるよう、しっかりと準備を整えておくことができれば良いのですが。



前回の集会ではミーティングを出たり入ったり、やはり15才なりの関わりかたをしていたが、20周年記念集会では“成年に達した”なりの関わり方をしてゆきたいと思う。《成年に達する》からこそ、それなりの責任を自覚し、そして“成年に達する”からこそ、自分に素直になり、心ゆくまで自分自身を楽しませてやりたい。

「ソーバー・イン・クレージー」というAAスラングをアメリカのAAに参加していた仲間が仕入れてきた。その意味を尋ねると「しらふで馬鹿になる」ということだそう。以前はアルコールの力を借りて陽気になり騒いでいたが、今度はしらふでプログラムの力を借りて、陽気になり騒ごうということではないかと思う。仲間と一緒に陽気にばか騒ぎをして腹の底から笑っている時に、心から幸せだと思ふと同時に、回復、成長のために楽しむということはずくづく大切だなと感じる。

今度の記念集会では、フェローシップを担当させて頂くことになり、ディスコパーティーを始め、さまざまな催し物を企画している。日本全国から集まる多くの仲間とともに、心を開き、心ゆくまで楽しみ、大いに経験と力と希望を分かち合いたい。

AAとともに歩む多くのメンバーと、それぞれの思いを分かち合えるのを心から楽しみにしています。その時まで、すべての仲間今日一日、神の配慮がありますように。

フェローシップ担当 B.

## 韓国AA第2回インターナショナル コンベンションに参加して

韓国AAの第2回目のインターナショナルコンベンションに参加するため、指定されたバスのターミナルに行ってみると、時間の余裕をもち過ぎたためか、まだそこには誰も集まっていなかった。オフィスも近いと地図に記されていたので、とりあえずオフィスに向かうことにした。一緒に来た同じグループの仲間と、地図と実際の道路を確かめ合いながら、二度迷いながらも、小さなビルの入り口にAAの二文字を見つけたときは、やはりホッとした思いが心に沸いて来た。

暖かくオフィスに迎え入れられ、早速登録の手続きとバス代の支払いを済ませた所に、かなり年を取られた韓国の仲間から日本語で話しかけられた。日本語の教育を戦前に受けた方とのことだった。しばらく雑談を交わしてから、時刻を見計らって出掛ける多勢の仲間と、発着所に行ってみると、交通渋滞にでも巻き込まれたのかバスはまだ来ていない。目の前の道路を見ても道路の混雑は相当にひどいし、万博のせいで飛行機の切符が取りにくく、仕方なしに前日から来てホテルに泊まっていた私たちがここまで来る途中の交通混雑も相当なものだった。

時計に目をやる仲間も何人かはいたが、誰も待つことに離れているのかしごく当然という表情で雑談に興じていた。私たちも先ほどの方に通訳をお願いし、何人かの仲間と話を交わしているうちにバスがやって来た。長く停車のできるような場所ではないから、さっそくに私たちもバスに乗り込んだのだが、荷物などもこのバスで運ぶ様子で、係りの人は相当忙しそうだった。

予定では、1時間半くらいで会場になっているリゾート地に到着することになっているが、この時間帯では予定を相当にオーバーしそうだということだったが、その言葉のどおり3時間もかかってしまった。お陰でバスの中でも韓国の仲間たちとフェローシップを十分に楽しむことができた。会場に着くと、その受付にいた人が、日本からの仲間が3人、既に到着して部屋で休んでいると教えてくれたものだから、さっそくその部屋を訪ねることにした。ドアをノックすると中から「ハイ」という答えが帰って来た。誰と誰とがこちらに来るとい話はJ S Oを通じて知っていたが、やはり他国で知り合いに合えるのはうれしいものだ。この部屋にはWSM評議員の美松さんともう一人の女性がいて、すぐに別の部屋にいた韓国に長いことメッセージを運び続けているオールドタイマーもやって来てくれた。

隣の国の国際コンベンションにわずか5名の参加というのは寂しい気もするが、ちょうど日本でも全国でいろいろな催し物のある時期と重なってしまったのだから、仕方ないことなのだろう。しかし、今度のAA日本20周年記念集会には多勢の外国からの仲間を迎えたいという希望があるから、その宣伝のカードを作り、オフィスのスタッフの手で配ってもらうことにしておいた。

オープニングセレモニーは、予定からかなり遅れて始まることになった。宿舎になっている建物にもホールの設備はあるのだが、会場は広場を挟んだ平屋建のログハウス風の別の建物に用意されていた。会場に集まった顔触れを見ると当然のことながら大部分は韓国の仲間と、私たち5人のほかにはアメリカから来た仲間が二人、それに雑談を交わした韓国在住のアメリカ人が二人ほどと、日本から来たアメリカ人が一人交じって、約50名ほどが一堂に集まっていた。短い黙想に始まり、プレアンプル、3章、5章が読まれる所は私たちのやり方と全く変わらず、言葉は分からなくても意味が通じて来るというおかしな経験をさせてもらった。

司会者の少しの話、そしてスピーカーが話すというところも変わらず、セレモニーの第一段階が終わり、次はQ & Aとでも言うのだろうか、会場から集められた質問票に前列に並ぶパネラーが答えるというプログラムなのだが、私たちに敬意を払ってくれて、パネラーの一人にWSM評議員の美松さんも指名された。もう一人にはアメリカの仲間も選ばれ、通訳のできる韓国人と一緒に前列にならばされた。

質問の内容は、断酒とソプラエティの違いは？、仲間と裏切られたときは？、仕事とミーティングの比重はどちらにおいたらよいかとか、言うようなことで、こういうことは、やはり万国共通のテーマなのだなどと改めて知らされた。プログラムの中断の間に、韓国の仲間から聞いたところでは、現在ソウルに8グループ、釜山に3グループ、その他に4つか5つのグループがあり、活動を続けているとのことだった。まだまだ、これからですよと言うのが彼の言葉だったが、このコンベンションにも翌日土曜日のメインプログラムの頃には家族や関係者などを含めて200名近い人が集まるだろうという彼の表情は、これからとは言いながらも韓国AAの成長に大きな自信をもっている様子が伺えた。

飛行機の都合で、どうしてもこの日ソウルに戻らな

くてはならない私は、このプログラムが終わったところで失礼することにしたが、残りの3人の日本からの仲間は全てのプログラムを満喫した後帰国する予定だというから、この仲間にAA20周年のPRをお願いして、タクシーの手配を頼むと、日本語も上手な仲間の一人が自分の車で送ってくれと申し出てくれた。混雑はまだ終わっていないだろうに迷惑をかけると辞退したが、彼の言葉が仲間への善意にあふれているこ

とから、私たちはありがたくその申し出を受け、ソウルまでのドライブを楽しませてもらい、しかも車中のフェローシップを深めることまでさせてもらった。

本当に短い隣国の仲間との交流であったが、心温まる歓迎を受け、国籍、言葉を超えたところで共通するものへの理解を深めることのできた一日だった。

AA日本ニューズレター編集部 鈴木

## ミーティングハンドブックが 改訂されました

メンバーの皆様にはグループの代議員を通じてすでにお知らせしてありますが、9月末日にミーティング・ハンドブックの改訂版が発行されました。

昨年より印刷費の値上がりが通知され、販売価格の変更が余儀なくされたため、値段が上がるのならこれをきっかけに内容も再点検してみようという提案が昨年のGSMの文書委員会で出され、そこで今年度のGSMでその改訂案が話し合われた次第です。その検討の際、わたしたちが基盤にしたことは、AAでは、AAに端を発する文書だけをメンバーに示していこうという姿勢でした。

したがって、「医学界の見解」と「アルコール中毒の進行と回復」の図は削除し、その代わりにビッグブック第六章に書かれた「AAプログラムの希望」と、「12の概念」を挿入、また、「アノニミティについて」も関連のAAパンフレットから抜粋した具体的な内容に変更しました。

ミーティングの始めに読まれる「序文」、「三章」、「五章」につきましては、“アルコール中毒”“アルコール中毒者”という言葉が“アルコホリズム”、“アルコホーリック”という原語に変わったただけですので、お手持ちのハンドブックでも十分ご利用願えます。

ただ、このような原語に変えたため、ただでさえAAはカタカナがあふれているのに、さらに取っ付きにくくなるのでは、という意見はAA内でも多くありました。今回、このようなカタカナ表現になったのは、アルコホリズムという言葉の適切な日本語訳がないという、ただそれだけの理由です。「アルコール症」「アルコール依存症」「アルコール関連障害」「アルコール中毒」等いろいろ候補が上がりましたが、どの用語もアルコホリズムを表す決め手がなく、結局、原語をそのまま使うことになった次第です。

また、「平安の祈り」につきましても、AAが原典ではないため、ハンドブックからは削除しましたが、

だからといってAAメンバーがこの祈りと無縁になったということでは全くなく、これからもAAメンバーには広く愛されていくことでしょう。なおこの祈りの由来につきましては、ボックスの12月号で取り上げる予定ですので、どうぞご参照ください。

改訂版のハンドブックの価格は一部70円です。これからもどうぞ幅広くご利用いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

AA日本出版局

### JSOオフィス 幹事会より



8月は例年通り休みにしたので、9月19日のオフィス幹事会では、1994年1月1日からスタートする新AAJSOオフィス運営委員会の(B)運営委員選挙の告示を終了したことに伴い、(A)運営委員の検討に入った。

アンケートでは、財務、保健福祉、メディア、医療の専門分野の順でノン・アルコホーリック2名の方に当運営委員会に関わっていただくよう提案されているが、保健福祉、医療の専門分野から各1名お願いすることにし、事務局から正式に依頼を進めることになった。なお、財務は公認会計士2名の方にボランティアで専門的指摘をして頂けることがすでに決まっております。

以上